

第2回全日本空手道体重別選手権大会
第19回全日本パラ空手道競技大会 監督会議資料

令和5年8月5日 (土)
大会審判長 佐伯 進

【形競技】(パラ空手道競技)

1. 競技方法

- (1) トーナメント方式で1名ずつ演武し、得点により勝敗を決定する。3位決定戦は行わない。
- (2) 形は自由選択とし、身体機能を考慮し創意工夫により形の内容を適宜改変しても構わない。
- (3) 初戦から決勝戦まで同じ形を繰り返し演武しても良い。

2. 注意事項

- (1) 令和4年度の競技規定で行う。

【組手競技】(パラ空手道競技)

1. 安全具

- (1) 全空連検定の安全具ニューメンホー(VI・VII、マウスシールド装着)、拳サポーター、セーフティーカップ(男子のみ、車椅子使用の競技を除く)、ボディプロテクター及び全空連またはWKF検定のインステップガード、シンガードを装着すること。
- (2) 安全具及び帯(赤、青)は各自で用意する。

2. 注意事項

- (1) 令和4年度の競技規定で行う。
- (2) その他の詳細な注意事項については別紙参照

【その他】

- (1) 監督及びコーチは白の空手着を着用すること。介護者については空手着でなくても良い。
- (2) 監督、コーチ、介護者はIDカードを携行し明示すること。
- (3) 金属類のヘアーバンド等の装着は認めない。
- (4) 形競技における補装具の装着は認める。また、組手競技では事前にクラス別で安全を確認されたものについてのみ、その装着を認める。

【組手競技】(体重別選手権)

1. 安全具

- (1) WKFまたは全空連検定品の拳サポーター(赤・青)、ボディプロテクター、インステップガード、シンガード(赤・青)及びセーフティーカップ(男子のみ)、チェストガード(女子のみ)を装着すること。メンホーは使用しない。

※拳サポーターは「令和5年1月16日付け、組手競技における拳サポーターの使用基準について(通知)」を参照

・素面での大会は国際基準の厚手タイプ(新型)で行う。

- (2) マウスピースは透明もしくは無色のものとする。
- (3) 安全具、道着等で不備があり 1 分間ルールの適用となった場合、不備が訂正されたとしても監督はその試合につくことはできない。

2. 注意事項

- (1) 令和 4 年の競技規定(決勝戦における VR を含む)で行う。
- (2) 競技者の所属都道府県審判員以外で構成する。万が一誤って競技者の所属都道府県審判員で試合を行った場合は無効とし最初からやり直す。
※地区協議会、高体連、学生連盟、実業団から選出された選手には競技開始前に出身都道府県を確認すること。
- (3) 試合が連続する場合、同じコーナー(青→青)の時は試合と同じ時間、コーナー(青→赤)が変更となる時は 5 分間のインターバルを取る。

【その他】

- (1) 選手は選手用 I D カード、監督は監督用 I D カードを下げ、競技場に入る。
- (2) 監督の服装は全空連制定のブレザー、ネクタイ、ズボン、シューズを着用する。
- (3) アリーナ内ではウエストポーチやリュック類は身につけない。
- (4) 選手は各自全空連検定済み(マーク入り)の赤・青帯を用意する。
- (5) 胸マークについて、既に道着に刺繍してあるものは今回の規定サイズを超えていても可とする。
- (6) 計量は令和 4 年のルールで行われるため、男子、女子ともに許容範囲は 0.2kg とする。

【ビデオレビュー】

- (1) 決勝戦は VR (ビデオレビュー)を採用する。
令和 4 年時の WKF 組手競技におけるビデオレビュー規定を適用
- (2) 片方のビデオレビューが開始された後は、もう片方は VR を要求できない。
(VR の開始は主審が VR のゼスチャーを終えた時)
- (3) 要求された技が C 1 と判定された場合、カードは戻される。
- (4) 選手が VR カードを出すよう コーチに指示をした場合は選手に C 2 を与えるが、VR は行う。(令和 5 年新ルールとの相違点)